

120920 マルハナバチ

今回は、南河内の山々で出会う「マルハナバチ」を紹介いたします。

マルハナバチは「ミツバチ」の仲間ですが、ミツバチよりも大きくて、どちらかと言えば寒い地方で繁栄している種です。

また、体は比較的長い毛で覆われていますので、花粉を集めるには効率良く、温帯地方の「虫媒花」の送粉者として重要な存在であると言えます。

その生態は、ミツバチやスズメバチと同様、女王バチのみが産卵を行う社会生活を営み、交尾を済ませた女王バチのみが越冬し、翌春単独でコロニーを作り始めるようです。

(巨大なコロニーではなく、家族生活に近いものです…)

先日、「ツリフネソウ」を紹介した際に、「トラマルハナバチ」の活躍ぶりに触れましたが、種によって吸蜜に用いる口器(中舌)の長さが異なり、中舌の長い「トラマルハナバチ」などは蜜源の深い花を、中舌の短い「クロマルハナバチ」、「オオマルハナバチ」などは蜜源の浅い花を訪れる傾向があります。

<http://www.pref.osaka.jp/attach/15501/00099022/120910turihune.pdf>

ちなみに…

「ハリー・ポッター」に登場するホグワーツ魔法学校のダンブルドア校長の「ダンブルドア(Dumbledore)」は古いデヴォンの言葉で「マルハナバチ」を意味するのだそうです。

(彼が音楽好きで鼻歌を歌いながら歩き回っているイメージからの命名だそうです…)

◆写真①・②： トラマルハナバチ

◇集めた花粉は、後ろ足の外側にある「花粉ポケット」にきちんと保管しています…

◆写真③～⑤： クロマルハナバチ

◇③・④は♂ですが、自分が食べているだけみたいです…

◇⑤は♀で、名前の通り黒い毛で覆われていて少し怖いイメージですが、集めた花粉を巣に持ち帰るべく、後ろ足の「花粉ポケット」には花粉が保管されていますね！

◆写真⑥・⑦： オオマルハナバチ

◇本種は「在来種」です。

◇侵略的外来種として問題視されている「セイヨウオオマルハナバチ」は別種です。

◇⑦の個体は、実に可愛らしい表情ですね。

※マルハナバチは穏やかな性格なので“人を刺すことはない”と言われていますが、雌バチは毒針を持っていますので、刺激しないように気をつけましょう。

(毒針はミツバチとは異なり、何度も刺せる構造ですし…)

◆写真⑧： ウワッ!!!

◇葉っぱの隙間から睨み付けてきたのは…

◇腹部の先が黒いので、「ヒメスズメバチ」です！

◇「ヒメ」などと優しい名前ですが、我が国では「オオスズメバチ」に次いで大きな体を持った種なのです。(ただし性質は比較的穏やか)

◇もちろん、こんな状況で「接写」などできるはずありません。

この個体は、地面に落ちて死んでいたのを葉っぱに載せたのです…

(前にキイロスズメバチでも同じことをしました…)















